



なぜだ液を使うのか

代謝物の研究成果とだ液ならではの利便性

代謝物研究で、だ液、尿、血液を調べたところ、がんの方とそうでない方を見分ける上で、だ液のデータが一番きれいに解析ができました。

だ液は侵襲性が低く、どこでも採取が可能という利便性の良さがあります。受診率の向上や、早期発見につなげる上で有利であると考えました。

だ液には、がんだけでなく、様々な疾患（生活習慣病、心疾患）のリスク測定に広がる可能性があると考えています。

※有意差：確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる数値上の差のこと。

だ液検体での研究結果上で



がんの方との有意差が認められた



侵襲性 **低**

痛くない、
身体に負担がない

利便性 **高**

面倒でない
どこでも採取可能